

コウチュウ目カミキリムシ科

オオハナカミキリ

青森県：D

環境庁：該当なし



工藤周二撮影

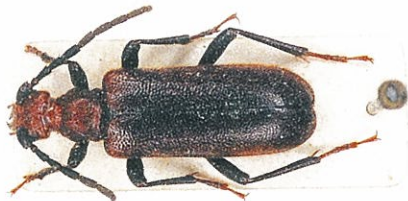
今

コウチュウ目カミキリムシ科

ヒゲブトハナカミキリ

青森県：C

環境庁：該当なし



青森県立郷土館所蔵

今

体長15~23mm。北海道と本州に分布しますが、東北地方ではまれな種類です。

本県では1950年前後の記録があり、その後30年以上認められていませんでしたが、1980年代以降、八甲田山系で数例記録されています。

成虫はノリウツギの花を訪れ、また、ブナの立枯れ木からも得られています。

幼虫はブナやダケカンバを食樹とすることが知られています。

体長13~14mm。北海道・本州・四国・九州に分布しますが、いずれの産地でも非常にまれです。

幼虫はブナの幹の空洞内から発見され、成虫はノリウツギの花に来ますが生態はよく分かっていません。

本県では十和田湖周辺と相馬村で記録されています。

伐採による生息地の環境悪化が考えられ、空洞を持つ大木が残っているような自然林を保護していくことが望まれます。

コウチュウ目カミキリムシ科

コウヤホソハナカミキリ

青森県：D

環境庁：該当なし



工藤周二撮影

今

体長15~20mm。本州と四国に分布しますが、関東以北ではまれな種類です。

東北地方では本県と秋田県で記録されているだけで、非常に特殊な分布をしています。

本県では1980年代以降に相馬村でノリウツギの花から得られています。また、幼虫の食樹としてスギやヒノキが知られていますが、相馬村ではヒバを食樹とすることが判明しています。

コウチュウ目カミキリムシ科

ヒゲジロホソコバネカミキリ

青森県：D

環境庁：該当なし



工藤周二撮影

今

ホソコバネカミキリの仲間は鞘さやばねが短くて、後ばねが露出しており、カミキリムシの中では特殊なグループです。つかまえると尾部を曲げて刺すような動作をとることから、ハチに擬態しているという説もあります。

北海道・本州・四国・九州に分布しますが、いずれの地方でも非常にまれです。体長14~22mm。

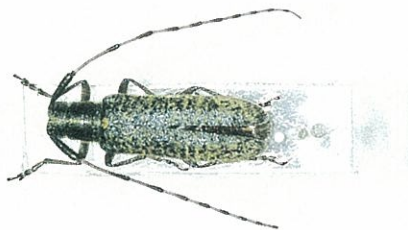
本県では1964年の十和田山地における記録があり、最近では、小泊村でブナの立ち枯れ木から十数個体採集されています。

コウチュウ目カミキリムシ科

ミチノクケマダラカミキリ

青森県：C

環境庁：準絶滅危惧



阿部東所蔵

体長13~14mm。体に黄色の微毛が生え、霜降り状のまだら模様のあることが名前の由来で、本州北部に分布します。

山地の草原に生息しており、ヨモギやハンゴンソウの葉や茎に見出されます。幼虫はハンゴンソウの茎を食べます。

個体数の少ない種類で、本県では五所川原市で記録されています。

山地草原は開発の影響を受けやすく、また自然状態でも樹木が侵入し、植物の構成が変わってゆきます。

このような、山間地の生息環境の保全が望まれます。

今

コウチュウ目カミキリムシ科

ヒメヒロウドカミキリ

青森県：C

環境庁：情報不足



工藤周二撮影

体長10mm位で、ヒロウドカミキリの仲間では小型の種類です。

本州・九州に分布していますが、生息地は限られており、東北地方では本県の深浦町・岩崎村、秋田県の岩館村だけに分布します。

7~8月に海岸草地のオトコヨモギやヨモギから得られており、幼虫はこれらの草本の茎部をえさとしますが、護岸工事やリゾート地としての開発などにより、本種の生息環境は失われつつあり、海岸や低地の自然草地の保全が望まれます。

今

コウチュウ目カミキリムシ科

ヨコヤマヒゲナガカミキリ

青森県：D

環境庁：該当なし



工藤周二撮影

今

体長30mm前後の大型のカミキリムシで、全体が灰白色の微毛でおおわれています。本州・四国・九州に分布し本県が北限です。

幼虫はブナの生木の材部を食べます。

本県では津軽地方で採集されており、一般に個体数は少ないですが小泊村ではブナの大木から数十頭の個体が採集された記録があります。

コウチュウ目ハムシ科

ベニカメノコハムシ

青森県：C

環境庁：該当なし



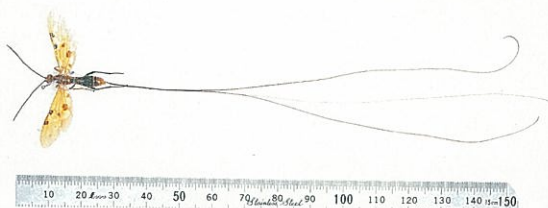
安富和男撮影

山内

体長7.5mm内外。体は明赤褐色ではねに黒い紋もんがあります。本種は、国内では東北地方（本県・岩手県・宮城県）にだけ分布する美しい種類で、生息地が限定される希少種です。本県では八甲田山地での記録が多く、湿地帯のミズギクを食草にしています。本種は、シベリア地方にだけ知られていましたが、1933年6月4日に猿倉温泉で発見されたのが国内での初めての記録です。近年は、湿地の乾燥化や採集者の乱獲によって個体数が減少しています。

ハチ目コマユバチ科
ウマノオバチ

青森県：A
環境庁：該当なし



黒石市教育委員会所蔵

山田

体長15~24mmだが、雌は150mmもある長い産卵管を持っています。黒石市、八戸市などから50年以上前の記録があるだけで、絶滅が心配される種です。本種はシロスジカミキリの幼虫に寄生するため、それが食樹としているコナラ、ハンノキ、ヤナギ、クリなどがある低山地の広葉樹林に生息しています。近年、低山地の広葉樹林の多くは畑地やスギ林などに変わり、生息できる環境が大変少なくなりました。

ハチ目シリアゲコバチ科
オキナワシリアゲコバチ

青森県：D
環境庁：該当なし



山田雅輝撮影

山田

体長9~12mmあり、雌が長い産卵管を背負うように持っている南方系のハチで、八戸市と弘前市から得られています。平地や住宅地周辺に生息し、コクロアナバチの巣に寄生します。成虫は年1回発生で8月頃に現われ、寄主の巣がある垣根の竹筒やかやぶき屋根のヨシなどに産卵管を突き刺して中の幼虫に卵を産み付けます。近年、竹垣やかやぶき屋根の減少によって、寄主以上に希少なものになりました。

ハチ目オナガコバチ科

オナガアシブトコバチ

青森県：C

環境庁：該当なし



山田雅輝撮影

山田

体長3～4mmの小型のハチで、八戸市、黒石市、木造町などの記録があります。雌は長い産卵管を持っているので、付着物に守られたカマキリの卵に寄生できます。成虫は6月頃カマキリのふ化より少し前に羽化します。寄主のカマキリは以前には草地や田んぼなどどこでも普通にいましたが、最近は河川敷、林縁などで細々と生き延びています。

それに寄生するハチにとってはさらに厳しい生息環境となっていることが推察されます。

ハチ目セイボウ科

オオセイボウ

青森県：D

環境庁：該当なし



山田雅輝所蔵

山田

体長12～20mmの南方系のハチで、本県が分布上の北限に当たります。30年以上前に山形村（現黒石市）と鱒ヶ沢町で記録されているだけでしたが、1999年に岩崎村で数個体が認められました。成虫は年1回発生で8～9月に現れ、スズバチの幼虫に体外寄生します。スズバチは岩や建物の壁面などに泥をこねた巣を造って、シャクトリガの幼虫を狩って入れます。スズバチは県内に広く分布していますが、オオセイボウはたいへん少ない。

ハチ目ベッコウバチ科

イワタツツベッコウ

青森県：D

環境庁：該当なし



山田雅輝撮影

山田

体長9～13mmで、岩木山、岩崎村などで生息が確認されています。成虫はカバキコマチグモの巢内に入り、成虫を麻痺させて卵を産み付け、クモの巢をそのまま育房として使います。このクモはイネ、ススキ、アシなどの葉を折り曲げて袋状の巢を造っています。近年、田んぼは住みにくい場所となり、また、ススキやヨシの茂る草地は年々減少しています。このため、本種にとっても生息できる場所が狭くなっています。

ハチ目アナバチ科

ルリジガバチ

青森県：B

環境庁：該当なし



山田雅輝撮影

山田

体長18～20mmの南方系の種で、本県が分布の北限に当たります。県内各地から記録されていて、1950年代には弘前市内でも普通に見ることができましたが、近年はほとんど見ることはできなくなりました。平地や低山地の住宅地付近に生息し、年1回発生で、成虫は7～8月に活動します。ヨシ筒、建物の隙間などに巢を造り、クモ類を狩ります。少なくなった原因は営巣場所となるかやぶき屋根の減少やクモ類の密度低下が考えられます。

ハチ目アナバチ科

シモヤマギングチ

青森県：C

環境庁：該当なし



獲物のハエを運ぶ雌

山田雅輝撮影

山田

体長7mm位で、十和田山地産の個体によって新種の記載がなされ、県外では福井県だけから知られている極めて希少な種です。成虫は6月下旬頃から活動し、ブナの立ち枯れた木に孔を掘って巣を造り、ハエ類を狩ります。巣造りのできるような枯れ木が毎年できるには大規模な森林を必要とします。このように密度が低く、生息条件が制限される種は環境のわずかな変化でも生存が脅かされるおそれがあります。

ハチ目アナバチ科

ササキリギングチ

青森県：C

環境庁：該当なし



左：雌、右：雄

山田雅輝所蔵

山田

体長9～14mmで、本州と朝鮮半島に分布し、わが国では本県が分布の北限に当たります。十和田山地、八甲田山地、戸来岳、川内町などで得られています。成虫は7～8月に活動し、ブナ、トチなどの太い枯れ木に孔を掘って巣を造り、ササキリ類を狩ります。このハチの生息地はえさとなる昆虫が生息し、枯れた木が放置されるような原生林及びそれに近い広葉樹林に限られていますが、そのような森林は年々少なくなっています。

ハチ目アナバチ科

ニトベギングチ

青森県：C

環境庁：該当なし



獲物のガを運ぶ雌

山田雅輝撮影

山田

体長11~17mmで、本県産の個体で新種の記載がなされ、県外では新潟、石川など数県で記録されているだけの希少種です。県内では白神山地、八甲田山地及びその周辺で確認されています。成虫は7~9月に現れ、ブナ、トチなどの太い枯れた木に孔を掘って巣を造り、大型のシャクトリガやシタバガなどの成虫を狩ります。生息地は広葉樹の発達した山地で、巣造りできるような太い立ち枯れが継年的にあるような森林です。

ハチ目アナバチ科

ハクトウアワフキバチ

青森県：C

環境庁：該当なし



獲物のヨコバイを抱える雌

山田雅輝撮影

山田

体長11~13.5mmの北方系の狩りバチで、わが国では最近まで北海道でしか得られていませんでしたが、近年、相馬村、黒石市、岩木山で発見されました。年1回発生で、成虫は6月頃に出て、土中に短い坑道を掘って巣を造り、ヤマトキタヨコバイの成虫を狩ります。育房には2~5個体の獲物運び入れます。生息地はいずれも標高450~800mの山地で、えさとなるヤマトキタヨコバイの分布とほぼ一致しています。

ハチ目アナバチ科

ニッポンハナダカバチ

青森県：C

環境庁：情報不足



獲物を抱えながら巣穴を掘る雌

山田雅輝撮影

山田

体長20~23mmで、県内では主に海辺の砂地に生息しています。成虫は7~9月に活動し、砂地に坑道を掘って巣を造り、アブやハエを狩ります。草がまばらで、風による砂の移動も少ないような適地には集団営巣地ができます。以前は内陸の河川敷にある砂地にも生息していたが、河川敷の改修と共に次第に姿を消しました。さらに海岸においてもゴミの堆積、土地造成、RV車の乗り入れなどによって営巣場所が年々狭められています。

ハチ目ケアシハナバチ科

シロスジフデアシハナバチ

青森県：D

環境庁：該当なし



ブタナを訪花中の雌

山田雅輝撮影

山田

体長13mm内外で、国内では九州に分布するといわれていましたが、近年、本州にも分布していることが分かりました。本県は分布上の北限に当たり、尾駱沼、十三湖、小川原湖の周辺で得られています。砂地やその周辺の草地に生息していますが、生息域は極めて局限されています。年1回9月頃に成虫が現れ、砂地に坑道を掘って巣を造り、ハチジョウナ、ブタナ、アキノノゲシ、ヤクシソウなどキク科の花を好んで利用します。